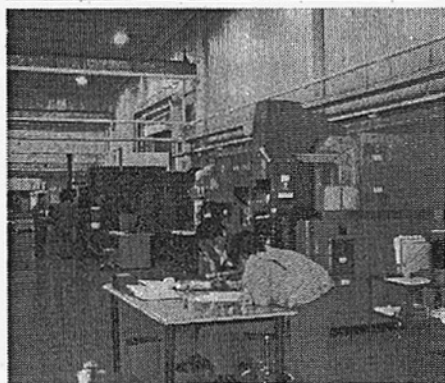


柴田合成

現調率引き上げに対応

天津(中国)で金型工場を稼働



〔前橋〕柴田合成(群馬県甘楽町、柴田洋社長、027

4・74・2146)

は、中国・天津の西青

経済開発区

………

中国・天津

の西青経済

開発区で操

業を開始し

た工場

に金型工場を完成、操業

を始めた。同社はすでに

中国で金型設計、プラス

チック成形を展開。日系

企業が金型を含めてト

ータルで現地調達率引き上

げを図る流れに対応でき

る体制を整えた。新工場

には品質向上、短納期化

に有効な新鋭設備も導

入。2年後をめぐりに能力

いっばいまで生産量を増

やし、第2期の着工を目

指す。

金型工場は100%子

会社の天津柴洋模具(由

井英比兒総経理)が運

営。投資額は約6億円。

従業員は約50人でスタ

ト。工場内には上海の金

型設計子会社と連動させ

る設計部隊も配置してい

る。

当面、生産の主力とな

るのは自動車部品と携帯

電話筐体向けの精密成形

金型。一部を天津で稼働中の成形子会社に供給するほかは、主に日系企業に販売する。

設備の目玉は段取り替え時間が大幅に短縮し、1週間の連続運転が可能な日本製のマシニングセンター(MC)と放電加工機。天津で2台目という日本製焼き入れ炉も導入した。

生産能力は金型の形状、大きさなどにより変動するが、およそ年間150型。2期工事後の能力は年間250-300型を想定している。天津のトヨタ自動車の周囲には多くの日系部品メーカーがある。これら日系企業は日本から輸入していた金型をコスト削減や納期短縮などを狙いに現地調達に切り替える動きにある。